

に喫てうるはしきものなり、民家にも必うゆべし、第一民の食を助けて飢饉をすくふ、又山林に亥かかくれゆりと云物あり、葉はいもの葉のごとく光ありてひろく長し、根は即つねのゆりのごとし、是又煮て食とする事つねのゆりのごとし、

〔草木錦葉集緒〕保百合作方附葉らんの丈を長す事

保百合は實を取土へ交置、春彼岸頃、川砂五分、赤土三分、黒土二分交合せ實を蒔、家根の下申日の所へ置、生たる節より、懸水澤山懸るは惡し、よき程に少しかはきたるは吉、雨を當れば枯る也、二才の二月初頃、植分に孫鉢へ三四本位植る、土は實蒔の土同様にて吉、置所は實生の時より少し日の強き方吉、併日向は惡し、尤雨に當らざる所よし、三才二月初一本づ、孫鉢へ植分、置所等同様花出たらば日向へ置、雨に當てよし、雨降ば水を受保ちたる事をためし見べし、落花後は又元のごとく雨に當らざる様にして、ひさしの下杯へ置てよし、肥は魚肥の薄きを、四月より七月頃迄三四度懸て吉、

〔草木六部耕種法三露根〕百合、薙、大蒜ヲ作ル法

百合卷丹ハ花葉異形ナレドモ、其根ハ同物ナリ、百合ハ山谷間ニ生ジ、好デ瀑布ノアル近傍ニ繁榮スル者ナリ、故ニ山陰ノ濕氣アル處ニ、自然ニ生ズルコト多シ、是ヲ以テ此物ハ耕種スル物ニ非シテ、野人此ヲ採テ啖フ、其味耕種スル者ヨリハ格別ニ美ナリ、然レドモ此ヲ耕種センコトヲ需ルニ、應合ノ土性少ク、盛ニ之ヲ作ルベカラズ、此ヲ植テ試ルニ、根ハ自然生ヨリ味大ニ劣リ、唯其花ヲ愛スベキノミ、花ニ白ト淡紅アリ、頗ル雅ナル者ナリ、故ニ根ヲ需テ作ル者ハ、大抵皆卷丹ヲ植ルヲ恒トス、此物亦氣候ノ寒暖ニ拘ラズシテ生長スル者ナリ、卷丹ハ其植地ノ調理ハ、蕪菁ヲ植ルニ同クシテ、土性ハ野腐壟^{ツチ}ニ宜シ、苗ヲ爲立テ此ヲ植ベシ、種子ハ其葉間ナル瘤ノ如キ者ヲ、花過ギ葉衰タル頃ニ、此ヲ採テ眞土ニ小便灰ヲ各半ニ混タル土中ニ埋メ置テ、其生氣ヲ萌シ